

有機栽培における大玉トマトの早熟作型で商品収量を高める定植期及び収穫目安

有機栽培における「桃太郎ホープ」の早熟作型では、3月下旬までに定植し、8分着色の果実収穫で、商品収量は増加

背景・目的

- ・施設を組み合わせた労働集約型の有機農業経営体では、大玉トマトの早熟作型が主力品目
- ・早熟作型は、夏場の大雨、高温及び強日射などにより生産が不安定
- ・裂果など規格外品の発生を軽減し、5、6月までに目標収量5t/10aを確保する栽培管理技術の確立が急務

成果の内容

- 3月下旬定植は、5、6月の商品収量が多く、放射状裂果など、外品が増加する前に、生産農家の目標収量5t/10aを確保
- 収穫時の着色程度が低いほど、裂果が減るため、外品収量が少なくなり、商品収量は増加
- 果実品質は、5分着色では劣るが、8分着色は10分着色と同等

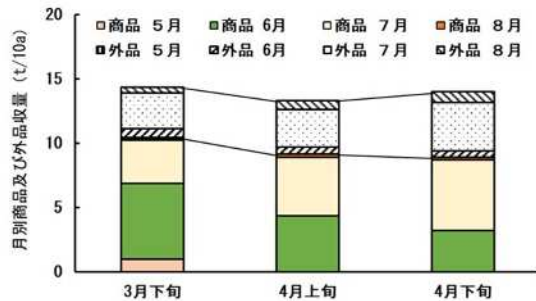


図1 定植期と収量性

- 注1) 定植期：令和3年3月25日、4月9日、4月22日
 2) 収穫期間：令和3年5月24日～8月20日
 3) 生産農家の目標収量5t/10a

表1 着色程度と果実品質

着色程度	糖度 (Brix%)	酸度 (wt%)	糖酸比
5分	4.9	1.2	4.1
8分	5.3	1.2	4.4
10分	5.5	1.3	4.2

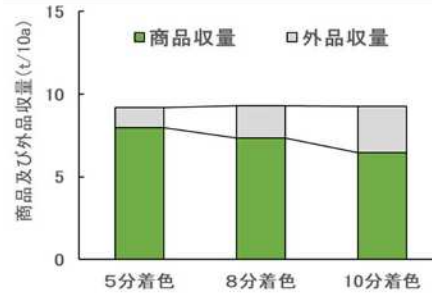


図2 着色程度と収量性

- 注1) 定植期：令和2年4月7日
 2) 収穫期間：令和2年6月2日～7月31日



追熟



図3 追熟後の果実
 注1) 追熟後の果実色は、同等。

期待される効果

3月下旬定植 × 8分着色収穫

- ➡ 果実品質の安定化
- ・商品収量の増加による所得向上



図4 収穫期のトマトの様子

普及対象・範囲

➡ 県内有機栽培トマト生産者

鹿児島県農業開発総合センター
 園芸作物部野菜研究室